令和８年度　第１回 学校関係者評価委員による主な意見および今後の手立て

岐阜県立下呂看護専門学校

評価項目	評価項目ごとの意見	意見に対する今後の手立て	R8 平均点	R7 平均点
I 学校経営	・入学者の定員割れが数年続いており、今年度入学者数がさらに減少している点から、経営という視点からは課題がある。少子化、学生の都会志向、大学志向という時勢に逆らいきれない現状があり致し方ない面もある。学校訪問やオープンキャンパスなどの広報活動など十分な努力をされており、入学者はオープンキャンパス参加者が多くを占めている点から効果的な活動をされていると言える。前述の課題に対してしっかりと対策がとられている。 ・組織目標に基づき、到達状況を事実に基づき捉えておられます。学校運営評価の評価項目ごとのデータの変化やその評価尺度にした各教員の判断なども分析されるとさらに良い。 ・組織目標を設定し、それに向かって、職員も生徒もいい人間関係を築きながら学校運営を行っている様子が伺えた。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。	・引き続き学校のビジョン、組織目標を職員間で共有し、一貫した組織運営を継続する。 ・今後も、毎年の組織目標に対する達成状況を可視化し分析を行い、学生及び教職員にとって、より良い学校運営を目指す。 ・下呂市内に勤務する卒業生をはじめ、地域の小中学校や高等学校の関係者からの意見を取り入れながら、本校の強みを活かした学校経営について検討を進める。	4.3	4.5
II 学科運営	・より実践的な学習を目指した、下呂温泉病院内での演習はとても良い。基礎教育と臨床が継続して人材を育成していくことができるモデルとしてほしい。 ・最終的な評価となる就職先への看護実践能力に関するアンケート結果では、前年度と比較して肯定的な意見が増え、否定的な意見はかなり減っている。当然個人個人のキャラクターもあるのでどのように素晴らしい学科運営をしていても全てが良い結果に結びつくものではない。単純な比較はできないが改善傾向として受け取れる。少人数を強みとして、教育が行き届きやすいと評価できる。 ・授業アンケートの回収率が上昇したことは教員の働きかけによる効果でありデータの妥当性にとっては良いことである。評価が簡便になった分、評価の精度については検証が必要であるかと思われる。折に触れアンケート結果に対するフィードバックを学生に行いアンケートへ協力していただくことの意義について説明、理解を促すと良い。 ・卒業後の国家試験の合格率も高く、学生は皆、看護師になっていく実態を踏まえると、良い学科運営をしている。今後も参観した授業のように地域を題材にした地域に根ざした医療向上を目指して、学生のニーズに合わせた授業をお願いしたい。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。	・現在、就職先や卒業生からのカリキュラム評価を分析し教育に生かしている。 ・地域社会の動向を見据え、地域包括ケアシステムで必要とされる人材育成に向け、生活や地域の視点を重視した教育内容をさらに検討していく。 ・現在行っている下呂温泉病院での演習は、学生にとって効果的であるため継続していくと共に、臨地の看護師を交えた演習、自由に参観できる演習としていき、臨床側と共に人材育成を行う。 ・授業アンケートは科目試験終了時に学生に依頼し、定着してきている。また記載された学生の意見は、内容を確認し授業に反映している。一方で、アンケート結果に対するフィードバックが学生に十分行えていない。引き続きアンケートの意義を学生に説明し協力を依頼していく。 ・授業研究、授業参観、実習ミーティング、伝達講習を継続し、学生の特性や求められる教育内容を踏まえた教育を展開する。	4.5	4.3
III 入学・卒業対策	・より多くの社会人入学生の確保を期待する。大学志向が強くなっているが、専門学校の特徴に社会人入学生の学びやすさが加わると良い。 ・「県立」であるため県内全域から入学者があるが、地元の飛騨圏域が占める割合が増えることを期待したい。それは学校だけの努力ではなく、当院で実習や働くことの魅力向上や行政の力も必要である。学校単独で出来ることはかなり実施されているのだと思う。 ・卒業（国試）対策としては、合格率が100％ではないのが惜しいが、これは試験なので致し方ない。 ・オープンキャンパスの回数・時期・下呂市とのコラボレーションなど工夫や努力の証が感じられる。実際の入学生増加につながる、地域定着につながる結果となればさらに良い。 ・入学生が少ないことが、この学校の大きな課題であると考える。特に下呂の地域に根差した清風高校からの入学生を増やし、卒業後も飛騨の地域に根ざした看護ができるようになると良い。 ・卒業後に地元の看護師になるのではなく、せっかく下呂の地に根差した看護学校で学んだ学生達なので、下呂の地域医療を盛り上げていってほしい。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。 ・入学については、在校生の実際の声を収集して、「少人数」や「学費の安さ」「寮がある」など、魅力・強みとして発信していって欲しい。 ・依然として、学生が定員を下回っている状況。引き続き、学生の確保に努められたい。また、国家試験不合格者のフォローにも努められたい。	・オープンキャンパス、学校訪問、出前講義、ガイダンス、ICTを活用した広報活動を継続していく。さらに、小中学校への出前授業等、将来看護師を目指す子どもたちが増えるよう活動を継続する。 ・広報活動では、県立学校の魅力（授業料が安い等）や本校独自の魅力（少人数、寮がある等）を、SNSの活用、下呂市・実習病院と連携しながら多くの人に周知していく。 ・中高等学校の教員を対象とした、説明会や授業参観等を行い、進路につながるよう取り組む。 ・入学試験に「社会人枠」を設けたことから、社会人にもターゲットを広げた広報活動を行う。 ・国家試験合格率100％を目指し、模擬試験、学習支援システムを用いた学習支援を進める。また、国家試験不合格者に対してのサポートを行い、今年度の合格に向け支援する。 ・卒業生の就業支援や離職防止に向けた活動を行う。さらに、就職先について、看護協会などの外部機関による相談を勧めるなど対応する。	3.8	4.2

Ⅳ 学生生活への支援	・学生生活実態調査からは、ほとんどの項目で肯定的な回答が得られれており支援できていると評価出来る。予算が限られているので限度があるが、インターネット環境の整備やパソコンの更新は現代社会において必須である。 ・少人数で、手厚い指導が行われており、学生の満足度は高いので引き続き、良質な教育的関わりを期待している。ただ、カリキュラムやボランティア活動などで飛騨圏域への熱意や探求心を育んでいることが良く伝わったが、卒業後の就職先の選択では、実習病院や飛騨圏域の病院を選択していないのは残念。 ・定期的に学生と面談を行い、その内容を反映させながら、改善できることから改善していこうとする姿勢が伺えた。学生が安心して学校生活が送れることと、一人一人がしっかりと目標をもって学んでいけることが大切。日常の中で学生がいつでも相談できる体制作りが大切。 ・学生アンケートの満足度も高く、良い支援が出来ている。	・学生生活実態調査結果や意見箱に投函された意見を大切にし、より良い環境を整備する。 ・出前講義・学校訪問・ガイダンス等を活用し地域に根差した看護師育成へ取り組む。さらに、学生が地域の魅力を実感できるよう、講義・実習、ボランティア活動等で地域と関わる機会をもち、就職支援へつなげる。また、施設側と相談し、実習病院の魅力を知る機会をつくる。 ・今年度から、条件付きで学生の私物端末の校内への持ち込みを認めている。学校内のインターネット環境は整備済みであり、諸規程が整備でき次第、学生（私物端末）に開放する予定。 ・寮のインターネット環境の整備は、費用面の課題の他、入寮生以外の学生との不均衡から対応は難しいと考える。 ・学生の状況に合わせたかかわりを継続させていく。スクールカウンセラーによる面談や教員による個別相談を行う。さらに、教員向け研修を行い教員の対応スキル向上に向けた取り組みを行う。 ・就職支援については卒業生と語る会や業者の説明会、個別相談を今後も継続する。	4.3	4.7
Ⅴ 教職員の育成	・2名の教員増が出来た。多岐にわたる研修実績がある。 ・教員の学び合いの姿勢が職場研修や伝達講習から良く伝わってくる。授業研究などの取り組みも行っている。実践報告会や看護学会などで発表の機会に繋げるとさらに良い。 ・研修や講習会など計画的に行われていることは良い。若い先生もいると聞いたが、計画的な研修が行われ、先生方が指導力を付けていくことこそ、学生にも反映され、学生の力を付けていくことに繋がる。頑張ってほしい。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。	・授業参観、授業研究、伝達講習等の機会を設け、教員全体で学び合う風土が出来ている。 ・新任教員に対しOJTを中心に、組織全体で支援していく体制ができている。 ・科目評価会では、自分の担当以外の科目の理解や担当科目との関連性を考える機会となっている。今後も継続していく。 ・領域変更の教員には臨地研修の計画、担当業務に関する研修の受講計画を立てている。引き続き指導力の向上に向けた研修計画を行っていく。	4.3	4.3
Ⅵ 管理運営・財政	・匿名による情報の取り扱いがとても軽くなっている。今後も情報セキュリティについての説明が繰り返し必要。 ・防災マニュアルが整備されている。 ・財政については材料がなく評価できない。 ・学生から書籍の充実を望む声があるため、引き続き計画的な整備を行えると良い。教科書等教材の精選についてのご意見があることから、活用の方法を示す、意識的に課題に取り入れるなど学生に教材による学びへの貢献や教材の持つ科学的根拠に基づく判断の必要性を示すことで教材の効果を発揮すると思う。 ・予算に関しては計画的に執行等されているとのことで良い。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。	・今後も、職員会議等の場を活用し、各種研修を行い、教職員としての必要な知識の習得を図る。 ・災害等の対応に向けて、防災マニュアルを随時見直すとともに、定期的に訓練を実施し、危機管理体制の充実を図る。 ・図書については最新の図書を計画的に購入するほか、学生から希望書籍に関する具体的な意見を聞き、計画的な予算の策定・購入を進める。	4.2	4.5
Ⅶ 施設設備	・建物自体は古いが、良く整備されている。 ・線路が近く、防音対策が望まれる。寮のインターネット環境の整備やパソコンの更新は現代社会において必須である。 ・建物等古くなっているが丁寧に使用し、学習環境を学生の過ごしやすいように工夫をしながら整えている。引き続き計画的に修繕をしていかれると良い。 ・校内のWIFI環境やJRの騒音など、必要な環境を整備する必要があることがわかった。予算も関係してきて難しい面もあると思うが、学習環境を整えていくことはとても大切なこと。生徒が自ら私物のパソコンを持ち込むことも聞いたが、必要に応じて対応していくことが大切。 ・経年を感じさせない状態が維持されている。適切な修繕が行われている。	・各施設・設備については、毎年の点検を実施するとともに、定期的に学生、教職員から意見を聞き、改善に向けて取組む。 ・県の予算・財政状況を踏まえながら、効果的な防音対策を検討する。 ・学校内のインターネット環境は令和7年度中に整備済みであり、今後、諸規程が整備でき次第、学生（私物端末）にも開放する予定。【再掲】 ・寮のインターネット環境の整備は、費用面の課題の他、入寮生以外の学生との不均衡から対応は難しいと考える。	4.0	4.3

Ⅷ 広報 社会貢献 地域活動	・地域の小中学校訪問、県内の高校訪問・オープンキャンパス開催時の広報活動は十分な努力をされている。 ・地域への広報も多様な活動の場に学生が参加し、良いアピールになっている。 ・小中学校での「出前授業」や地域でのボランティア活動への参加など、良い活動をしている。 ・SNSの活用や進学ガイダンスなど、積極的に活動されている。	・引き続きボランティア活動を通して社会貢献ができるよう支援する。今後は、継続的なボランティア活動につながるよう方法を検討する。 ・SNSを活用した学校紹介を学生と共に作成し、より学生目線からの当校の魅力も発信する。 ・引き続き下呂市や教育委員会の協力を得て、小中学校への訪問、地域行事への参加を行い、地域住民の方々へ本校を知っていただけるよう働きかける。また、中学・高校の進路担当者や生徒が講義・演習風景を参観してもらう機会等を検討する。 ・引き続き講義で地域へ出向き、地域住民との交流を通して生活や暮らしを知り、医療・看護を検討する機会を設ける。	4.3	4.2
Ⅸ 独自項目 寄宿舎	・建物は古いが、温泉付きの整備された寮があることは強みである。Wi-Fi環境の整備が望まれる。 ・寮の費用については安価で学生、保護者にとっては良いが、男子学生でアパート暮らしの学生との費用差が大きいと感じる。現在の物価高騰の状況に合わせて必要な電気、水道について学生の負担を検討しても良いのではないか。 ・寄宿舎があることが、遠方の学生にとっても有り難いこと。 ・現在の取り組み（活動）で良いと感じているため、引き続きこの方針で問題ない。	・寮生にとって快適で安全な生活環境を提供できるよう、学生の意見を聞き環境整備に務める。 ・寮のインターネット環境の整備は、費用面の課題の他、入寮生以外の学生との不均衡から対応は難しいと考える。 ・男子学生の居住や通学に係る状況の把握に努めるとともに、必要に応じて奨学金等の制度の紹介や住居に関する相談に対応するなど、学生の居住環境の公平性を確保するため、県や下呂市と相談しながら検討していく。	4.5	4.2